

山の百名花

研究生会員 木村 博

【85】コウシンソウ

懸崖の花：いや、なにもこれから菊や盆栽の話を始めようというのではない。日光連山から袈裟丸山にかけて自生するわが国の固有種、コウシンソウのことである。

はじめてその写真に接したのは、足尾銅山の歴史を紐解くべく銀山平に宿を求めたときであった。かじか荘の仲居さんによると、なんでも近づくのも危険な崖の途中に咲いているという。好奇心に火がついた。遠足倶楽部に入って間もない頃で、岩登りをかじり始めていた。しかし、調べてみると、庚申山では比較的たやすく見られるものらしい。その日に備えてマクロレンズを手に入れた。深田百名山マニアとしてはぎりぎりまで皇海山とどちらにするかで迷ったが、はじめて好奇心のほうがまさったのである。

Pinguicula ramosa 属名は（虫取り用に葉が）ギトギトしているという意味で、同属種には他にムシトリスマレがある。種名は（花茎が）枝分かれしていることを示し

ている。一センチほどの小さな淡紫色の二子の花が崖に張り付いていて、微風の度に小刻みに震える様はなんともいとおしい。よくよくみると一人つ子や三つ子もいる。隣にいるカメラマンは三脚を立ててからすでに三時間が経過したと笑う。シロヤシオの大木が純白無垢の花をつけ、芽吹き始めた木々の間にそれは見事であった。

【86】ウチョウラン (*Orchis graminifolia*)

都内に大学の後輩の職場を訪ねた。

「なんか珍しい花の情報はないの」

「ウチョウランがブームらしいですよ」なにやらロッククライミングが必要な懸崖に咲いていて岩蘭ともいうのだとか。しかしまあ、そんな岩壁なんて雲をつかむような

話だよ。

本科の夏は日原川の講習で幕を開ける。現地に近づく道路脇に苔むした茅葺き屋根が見える。マンネングサだかキンソウだかが生えていて、いかにもクロツバメシジミ(蝶)が遊んでいそうである。見て、あのピンクの花、ノビネチドリとは違うよね。えっ、ひよっとして……葉の形からしても (*graminifolia*)、目指す花に違いない。

次の年の講習を待ちわびていた。今度こそはと望遠レンズを購入した。しかし、あたりを探しても昨年の小屋がない。あつ、あそこにある新築の小屋はなんだ、嗚呼。

当面の山の課題は岩崎新百名山である。佐賀県代表、黒髪山にはクロカミランが咲く。ウチョウランの変種である。偵察を兼ねた山行で、よく知るといふ人の情報を得たが、残念ながらそのとき伊万里に彼は不在であった。望みを同人神森氏につなぐ。いとまたやすく探し当てた上にその姿をカメラに納めるとは流石である。が、崖までの距離がいかにも遠い。いよいよ、デジスコ(デジカメ+天体望遠鏡)の出番のようである。自分、また儉約の日々が続く。